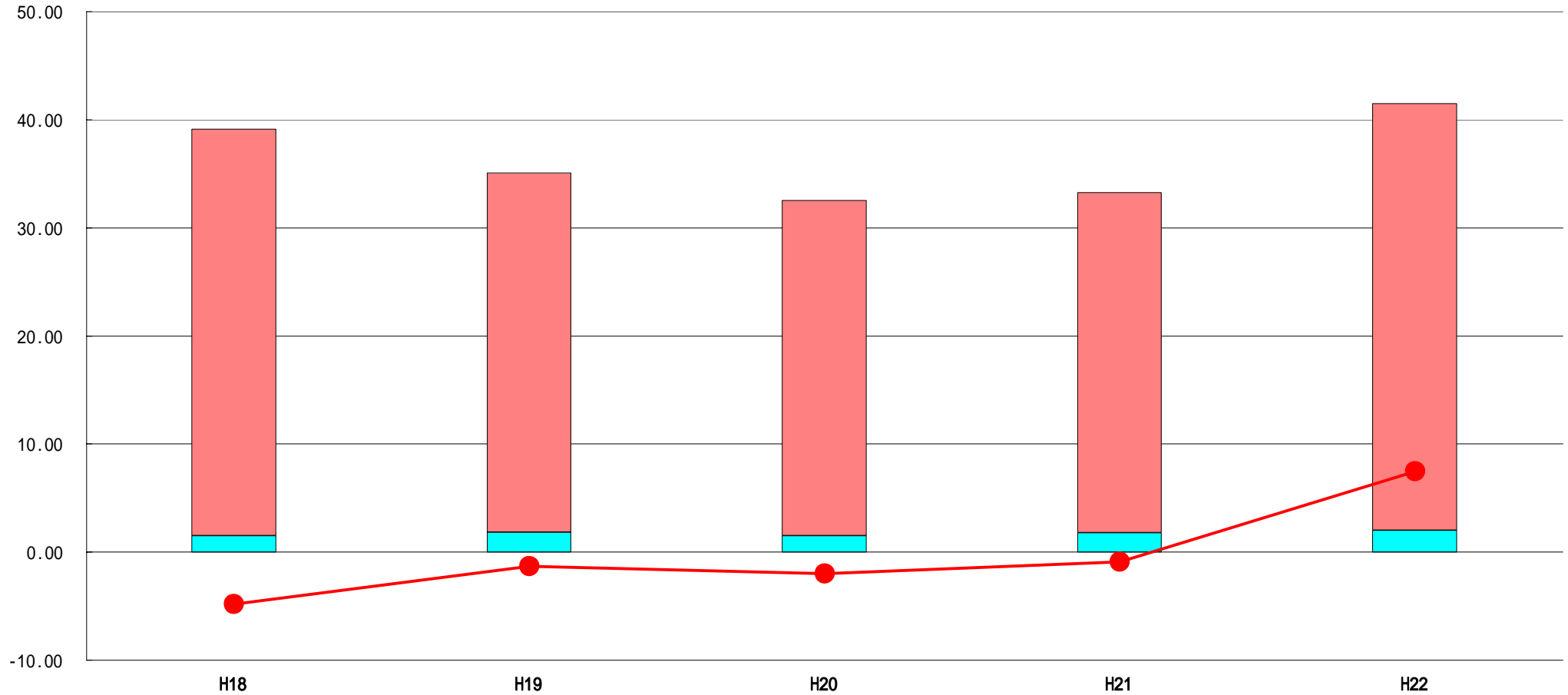


# (5) 実質収支比率等に係る経年分析(市町村)




平成22年度

長野県坂城町

標準財政規模比(%)



標準財政規模比(%)

区分	年度	H18	H19	H20	H21	H22
 財政調整基金残高		37.63	33.25	30.99	31.52	39.51
 実質収支額		1.49	1.81	1.52	1.76	1.99
 実質単年度収支		4.81	1.30	2.00	0.92	7.45

**分析欄**

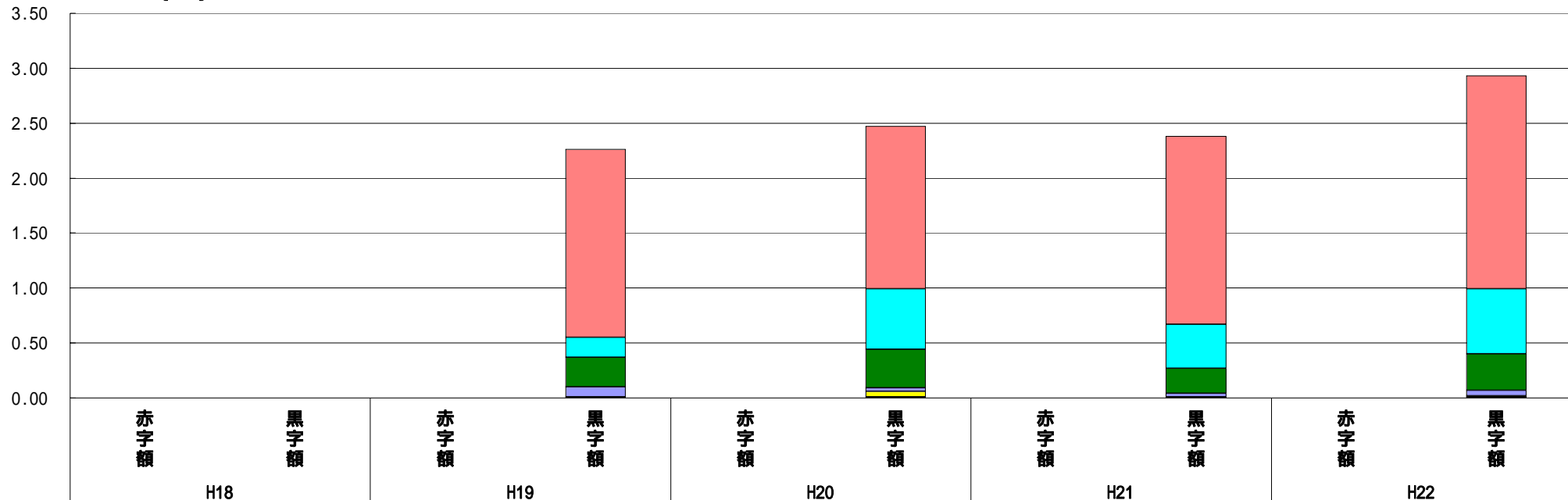
実質収支額は若干の増減を繰り返しながら概ね横ばいに推移している。平成22年度は、地方交付税の増収と継続的に行われてきた歳出の抑制により財政調整基金をはじめとする基金への積み立てが多い状況となった。製造業を中心とした「ものづくりの町」を標榜する当町は、社会経済情勢の影響を受けやすいという財政的特徴があり、長引く円高等不安定な経済状況下では、財政調整基金等一定の水準を維持することは安定した財政運営の視点から大きな意味を持つ。今後も投資的事業の取捨選択や経常的経費の抑制等を図りながら、健全な財政運営に努める。

# (6) 連結実質赤字比率に係る赤字・黒字の構成分析 (市町村)

平成22年度

長野県坂城町

標準財政規模比 (%)



標準財政規模比 (%)

会計	年度	H18	H19	H20	H21	H22
一般会計		-	1.71	1.48	1.71	1.94
坂城町国民健康保険特別会計		-	0.18	0.55	0.40	0.59
坂城町介護保険特別会計		-	0.27	0.35	0.23	0.33
坂城町有線電話特別会計		-	0.09	0.03	0.03	0.05
坂城町下水道事業特別会計		-	0.00	0.00	0.00	0.01
坂城町後期高齢者医療保険特別会計		-	-	0.05	0.00	0.01
坂城町同和地区住宅新築資金等貸付事業特別会計		-	0.01	0.01	0.01	0.00
坂城町老人保健特別会計		-	0.00	0.00	0.00	0.00
その他会計 (赤字)		-	-	-	-	-
その他会計 (黒字)		-	-	-	-	-

## 分析欄

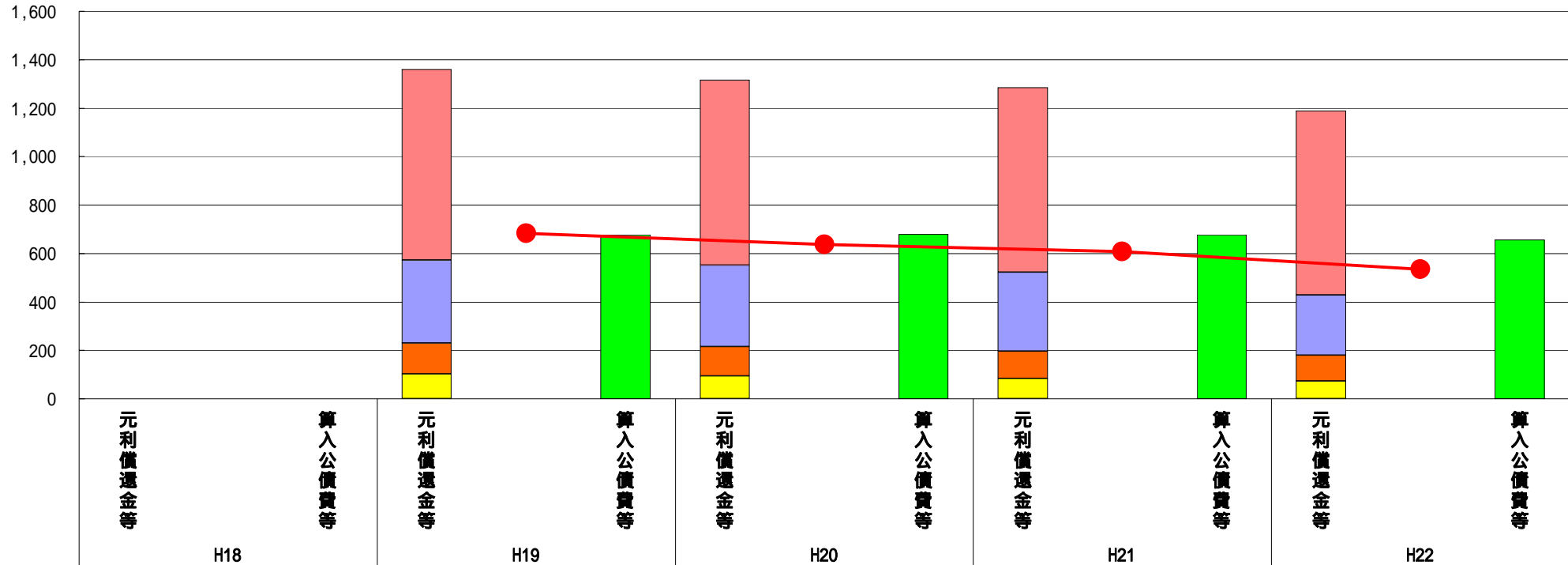
一般会計を含め、特別会計においても赤字額はなく黒字経営を行っている。財政標準規模に対する黒字額の割合は、増減はあるものの増加傾向にて推移しており、平成19年度と比較すると0.67ポイント上昇している。今後も自主財源の確保に努めながら、健全な財政運営を心掛け黒字運営の維持を図る。

# (7) 実質公債費比率（分子）の構造（市町村）

平成22年度

長野県坂城町

(百万円)



(百万円)

分子の構造		年度	H18	H19	H20	H21	H22
元利償還金等(A)	元利償還金	-	786	765	763	761	
	積立不足額考慮算定額	-	-	-	-	-	
	満期一括償還地方債に係る年度割相当額	-	-	-	-	-	
	公営企業債の元利償還金に対する繰入金	-	343	336	326	248	
	組合等が起こした地方債の元利償還金に対する負担金等	-	127	121	112	107	
	債務負担行為に基づく支出額	-	103	94	84	73	
	一時借入金利息	-	-	-	-	-	
算入公債費等(B)	算入公債費等	-	677	679	677	655	
(A) - (B)	実質公債費比率の分子	-	682	637	608	534	

## 分析欄

算入公債費等の額は660百万円前後を維持する一方で、下水道事業特別会計への繰出金や一部事務組合への負担金が減少していることで、実質公債費の分子は平成19年度から各年平均50百万円程度の減少傾向で推移している。  
元利償還金額は、近年取り組んだ大型事業に係る地方債や臨時財政対策債などの元利償還金で、ここ数年7億円後半と高い水準で推移しており、平成23、24年度とさらに増加が見込まれるところである。今後、投資的事業の取捨選択しながら地方債の発行抑制を図りながら、補償金免除繰り上げ償還制度等も活用するなかで、償還額の平準化を図り、公債費負担の更なる健全化に努める。

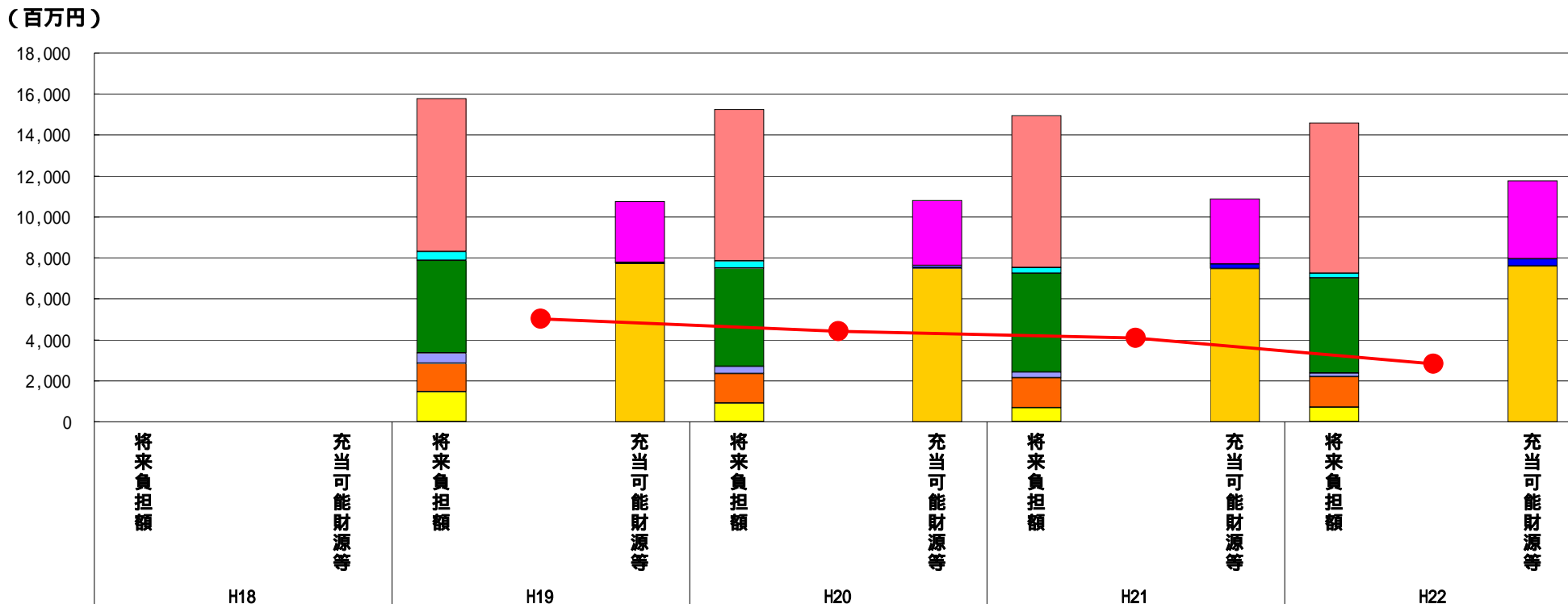
平成19年度決算と平成20年度決算の元利償還金は特定財源の額を控除しており、満期一括償還地方債に係る年度割相当額は積立不足額を考慮して算定した額を含んでいる。

平成23年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

# (8) 将来負担比率（分子）の構造（市町村）

平成22年度

長野県坂城町



(百万円)

分子の構造		年度	H18	H19	H20	H21	H22
将来負担額(A)	一般会計等に係る地方債の現在高	-	7,475	7,393	7,434	7,347	
	債務負担行為に基づく支出予定額	-	430	351	279	236	
	公営企業債等繰入見込額	-	4,533	4,794	4,831	4,655	
	組合等負担等見込額	-	504	369	262	169	
	退職手当負担見込額	-	1,372	1,439	1,468	1,494	
	設立法人等の負債額等負担見込額	-	1,472	899	683	702	
	連結実質赤字額	-	-	-	-	-	
	組合等連結実質赤字額負担見込額	-	-	-	-	-	
充当可能財源等(B)	充当可能基金	-	2,975	3,202	3,168	3,819	
	充当可能特定歳入	-	58	107	246	357	
	基準財政需要額算入見込額	-	7,717	7,506	7,463	7,600	
(A) - (B)	将来負担比率の分子	-	5,036	4,430	4,080	2,827	

**分析欄**

将来負担額が減少する一方で充当可能財源等が増加したことから、将来負担比率は、平成19年度から緩やかな減少方向で推移している。

特に平成22年度は前年度からの減少幅が大きい。これは一般会計等に係る地方債の現在高と公営企業債等繰入見込額の減少に加え、財政調整基金、減債基金といった充当可能な基金残高が大きく増加したことによるものである。

こういった状況により、将来負担比率は類似団体の平均と同程度の水準になったものの、後世代への更なる負担軽減に向け、繰上げ償還制度の活用や新規事業の取捨選択を図りながら、財政の健全化に努める。

平成23年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく将来負担比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。